

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600269		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム秋穂あかり園		
所在地	山口市秋穂東3980番地		
自己評価作成日	平成29年1月27日	評価結果市町受理日	平成29年6月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・隣接して医療機関・老健・特養・ケアハウス・ショートステイ・デイサービス・居宅があり連携しやすい環境である。
 ・家族交流会等を開催し、家族との連携に努めている。
 ・ホームページを活用し、行事や日々の様子等の情報発信をしている。
 ・新鮮な食材等を使用し、職員が交代で三食とも調理している。準備・盛り付け・片付け等、利用者一人ひとりの活躍の場をと一緒に行っている。管理栄養士の協力を得て全国の郷土料理、家族恋流会での手づくりの食事、スイーツ等、「食」について力を入れており、利用者が食事を楽しんでもらえるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は三食とも事業所で調理しておられ、利用者の好みを取り入れた朝食づくりは、食材の買い物も利用者と職員と一緒に近くの商店に出かけておられ、日常的な外出の機会や地域の人との交流にもつながっています。栄養士の協力を得て月1回、全国の郷土料理をつくっておられ、利用者は日本地図を見ながら食事と会話を楽しんでおられます。外食やバーベキュー、プチ納涼会でのバイキング、手づくり焼き鳥とノンアルコールビール、テラスや中庭での食事や喫茶、おやつづくりなど、食事を楽しむことができるよう支援しておられます。家族と一緒に楽しめる家族交流会の開催や誕生会、敬老会などの行事、「おいでませ喫茶」の開催、季節の貼り絵の制作、おやつづくりや調理の準備や後片付けなど、利用者のできることを活かして、一人ひとりが活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をして、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 24. 25. 26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 19. 39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38. 39)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 31. 32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 29)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他、事業所独自の介護目標を作っている。理念・介護目標とも事業所内に掲示している他、業務日誌にも掲載している。また、全体会議・ユニット会議等で共有し、理念の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、ユニット毎に毎年理念にそった介護目標を決めて、理念と共に事業所内に掲示し、業務日誌に掲載している。職員は、月1回の全体会議や随時行うユニット会議で話し合っている他、年1回理念について話し合い、理念や目標にそったケアができていくか振り返って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお大師参りやどんど焼き、初詣も地域の神社に行った。保育園児・小学生(授業の一環)・中学生(職場体験、ボランティア体験)での来訪があり交流している。中学生とは手紙のやり取りを行っている。又、朝食の食材を近所のスーパーで購入し、地域の方と挨拶をかわしたりしている。	自治会に加入し、近隣の施設に声かけをして草刈りや溝掃除をしている。利用者は、地域のお大師参りや初詣、どんど焼きに参加している。法人施設に保育園児や小学生の来訪があり、一緒に交流している。中学生の職場体験を受け入れており、暑中見舞いや寒中見舞いなどを交わし、交流を行っている。市町職員の新任研修を受け入れ、利用者といふれあう機会がある。ボランティア(月1回療養音楽、草取り、フラダンスなど)の来訪があり、交流している。食材の買い物時に地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア現場からの発信として『ほのぼの通信』を発行し、地域に認知症の理解や支援方法等の除法提供をしている。また、近隣施設と一緒に地域の高齢者学級で運動会を企画し、実行した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義について説明し、自己評価表を全員に職員配布して記入してもらい、計画作成担当者と管理者がまとめている。前回の評価については、会議で話し合い、改善に努めている。今年度は運営推進会議の回数を6回に増やした。又、デイサービスと2度合同で開催したことにより、メンバーの拡充にもつながった。	管理者は、職員に評価の意義について説明し、自己評価のための書類を全員に配付して記入してもらい、管理者と計画担当者がまとめて回覧している。職員は、日頃のケアの見直しや振り返りにつなげ、意見を「なんでもノート」に記入してサービスの改善に取り組んでいる。前回の外部評価結果について運営推進会議や職員会議で話し合い、今年度より運営推進会議の開催回数を増やしているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1度行い、うち2回はデイサービスと合同で開催した。グループホームの状況報告だけでなく、施設見学や消防・行政からの講義等、新しい協議内容を組み込んだ。参加された家族、地域の方からも好評を得ている。	今年度は、運営推進会議を年2回デイサービスと合同で開催することにより、会議を年6回開催している。利用状況や活動報告、事故やヒヤリハット報告などをして話し合っている他、年間計画を立てて、施設見学や災害対策講演など、工夫して開催している。委員の意見から、夜勤者がバネ付きキーホルダーを使用するなど、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、市担当者との連絡調整を行うとともに、地域担当の包括支援センターとの情報交換も行っている。また市町職員研修を受け入れている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話で相談し、助言を得ている他、市町職員の研修を受け入れているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や法人を通して情報交換を行っているなど、関係を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外施錠せず、外に出たい利用者には職員と一緒に出掛けたり、一緒に出掛けるのを嫌う利用者には、安全確保のためプライバシーを配慮しながら見守りをおこなっている。近隣施設や地域との協力体制もできている。近隣施設と合同で行う身体拘束廃止委員会にも出席し、会議で復命をしている。	法人他施設と合同で、身体拘束防止委員会を設置し、月1回会議を行い、記録を回覧し、全体会議で職員に復命して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックで気になるところは日常的に職員間で話し合ったり、管理者が指導している。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者とは職員と一緒に出かけている。運営推進会議で話し合ったり、「ほのぼの通信」で広報しているなど見守りに努め、法人施設間や地域の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルールの中で、具体的な行為について明記されており、事務所内に掲示している。内部研修を行ない職員の資質向上に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用する利用者が入居されたため、計画作成担当者は学ぶ機会があったが、全職員が理解を深める機会をまだもてていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の概要や料金など、インフォメーションの冊子を準備し説明を行っている。入居に関しても、すぐに入居を求めるのではなく、本人・家族が納得のいくまで話していただき、入居するか決めてもらっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付や、第三者委員の説明を行っている。運営推進会議、家族交流会、受診同行時、電話などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。利用者からの意見や要望は、話しやすい雰囲気作りに努め、聞いた内容はユニット会議で話し合い、よりよい関係作りに努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などについて、契約時に家族に説明している。運営推進会議参加時や家族交流会、受診同行時、面会時、電話などで、家族からの意見を聞いている。家族が意見や要望を言いやすい雰囲気をつくり、意見や要望があれば「なんでもノート」に記載し職員間で共有している。ケアに対する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や、各ユニット会議を行ない要望を聞く機会を設けている他、日常業務で話し合える雰囲気作りに努めている。	月1回の全体会議（職員会議）や年数回開催しているユニット会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者が個別面談の機会を設け職員の思いを聞いている。職員は日頃から意見や提案を「なんでもノート」に記載し、管理者や計画作成担当者と話し合っている。月1回の主任会議や月2回の施設長会議（運営者と施設長）で職員の意見を検討し、運営に反映させている他、各委員会（事故防止、身体拘束、物品、食材、ホームページ、新聞、おむつ、掲示物、ケア向上など）を設け、職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休育休取得職員への補充が十分できておらず、職員不足の状態が続いている。資格更新・研修等、施設負担にて参加している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で、3ヶ月に1度研修を行っている。他事業所との合同研修へも参加している。外部研修は、あまり参加できていない状況である。	外部研修は、勤務の一環として受講する機会があり、年1回リスクマネジメント研修に参加している。参加後は全体会議(内部研修)で復伝し、職員間で共有している。法人(拠点)研修(虐待・身体拘束、リスクマネジメント、救急救命、風水害について、試食会)を実施している。内部研修は、全体会議の機会を利用して、3ヶ月に1回、担当職員がテーマを決めて(認知症について、自分でケアを受けたいと思うか、グループホームについて)実施している。資格取得のための研修の情報を提供し、職員に奨励している。	・外部研修への参加の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市施設サービス部会等に出席している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り時間を取り、本人・家族が安心して話せる環境作りを心がけている。施設の中の様子や居室を案内し、じっくり話を聞いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に施設を見学していただき、話を聞くようにしている。入居を急がせることなく、検討してからの入居となることが多い。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、隣接しているケアハウス、特養、ショートステイを含めたサービスも紹介している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係ではなく、一緒に生活しているという思いの元、お互いが感謝し合える関係作りを築けるよう努力している。職員が指示的な発言をしてしまう場面もあり、不十分な点もある。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には「自宅を離れ」だと思ってくださいと伝えている。外出や受診等、家族と一緒に出掛けたりしている。何かあれば、一緒に考えている。また、家族を招いての行事も実施している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、近所の方の面会もあり、手紙のやりとり、電話等行っている。家族の協力を得て、お墓参り・法要・自宅へ日帰り・外泊をしている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の方の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。家族の協力を得て墓参り、葬儀や法要への出席、自宅訪問、盆、正月の自宅外泊などを支援している他、秋穂まつり(花火大会)など馴染みの行事へ参加を支援しているなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に座り、利用者同士会話の架け橋になるよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際、家族からの手紙への返信を行ったりしている。他施設や、入院された場合でも、家族から今後についての相談にのり、助言をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を記録に残し、職員間で共有している他、センター方式のシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、発言や言動、表情等から推測し、話し合い検討している。	入居時アセスメントやセンター方式シートを活用している他、日々の関わりの中で利用者ひとり一人に寄り添い、聞き取った言葉を「なんでもノート」に記録し、新たに設けたつづきやき欄も参考にして、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情などから推し量り、職員間でその都度話し合っ、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、フェイスシート、本人からの聞き取りを行ない把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を記録して把握に努めている。些細なことでも連絡し、共有するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心に作成している。本人・家族の意向、職員の意見を参考にしている。似顔絵を描き、本人の特徴をつかむことも行っている。1か月ごとにモニタリングを実施し、3～6か月ごとに見直しをしている。変化があった場合は現状に応じた介護計画を作成しなおしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、本人や家族の思いを反映させた介護計画を作成している。月1回、計画作成担当者と利用者を担当している職員がモニタリングを行い、全職員に回覧し、3ヶ月から6ヶ月毎にカンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。利用者の状態の変化など必要に応じて見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを行ない、反映している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、家族と一緒に受診の付添や、場合によっては職員対応で他科受診への付添を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設の行事への参加を行なっている。食材の買い出しは近所のスーパーへ出向き、美容院も入居前から通っていた所に行くなど、地域資源の活用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の他、本人・家族の同意のもと近隣の協力病院をかかりつけ医として受診している。他科受診は家族同伴・付添・職員のみ等、様々な形で対応している。受診後は、「何でもノート」に記入し、職員間で情報を共有している。夜間緊急時は、救急車を要請している。	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医の他、隣接する協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。家族の事情によっては社会福祉協議会のヘルパーと協力して受診支援をしているなど、適切な医療が受けられるようにしている。受診結果は「何でもノート」に記載して職員間で共有し、ケース記録にも記載している。必要に応じ家族に電話で報告している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば、協力病院の看護師に相談している。又、隣接している看護師に相談・処置してもらえる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族了解のもと病院に情報を伝えている。地域連携室との連携を取り合うことで、退院時も安心できる受け入れ体制作りを努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所で行える対応について説明し、又実際に重度化した場合は家族との話し合い・主治医や職員等の話し合いを経て、方針を決め、取り組むこととしている。	重度化した場合に、事業所でできることを施設替えも含めて契約時に家族や本人に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と相談し、方針を決めて共有し、希望に応じられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者別にヒヤリハット・事故報告書を細かくまとめ、状態に応じた防止策に取り組んでいる。隣接施設との事故防止検討委員会に参加している。又、毎年救急救命講習が開催され、参加している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や利用者事故報告書に記録し、事故防止検討委員会で対応策を検討している。介護計画に反映させると共に1年分を利用者毎に分析し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て救急救命講習を実施しており、半数の職員が普通救急救命講習修了書を得ている。応急手当講習を1名が受講している。「事故発生対応マニュアル」「夜間の緊急対応マニュアル」があり、リスクマネジメントの研修を受けた管理者が職員に復伝しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、消火訓練を実施している。地域にある消防署と連携もあり、運営推進会議でも、防災をテーマに話をしてもらった。	年2回(うち1回は消防署の協力を得て)、昼夜間を想定した消火、避難訓練を隣接するケアハウスと合同で行っている。運営推進会議に消防署長が参加し、防災に関する講演を行って検討している。隣接施設や法人事業所間での連絡協力体制ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルがあり、会議や研修で正しく理解し、プライバシーを損ねない言葉遣いに気を付けているが、徹底されていないと感じることもあり、その都度注意し合ったり、会議等で伝達している。	マニュアルがあり、管理者が内部研修で指導している。職員の心得15か条を合同会議で確認し、気になるところはユニット会議で話し合っており、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者とマンツーマンで話す機会を作り、利用者が話しやすい雰囲気作りに努めている。発言が難しい利用者については、表情や言動から読み取れるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせることなく、入浴時間や食事・起床時間、外出したい時や外へ散歩したい時、本人の希望に沿うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服や、起床時の服等、思い思いの服が着られるよう支援している。お化粧の習慣がある利用者についても、続けて行ってもらえるようにしている。理美容についても、移動理美容や行きつけの美容院を利用している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は三食事業所で調理している。朝食は利用者の好みを聞いて、買い物へ行き調理している。昼食と夕食は隣接施設の管理栄養士が作成した献立を見ながら調理している。準備・盛り付け・片付けまで能力に応じ一緒にしている。職員も同じテーブルを囲んで一緒に同じ物を食べている。全国の郷土料理、誕生日会、おやつ作り、家族交流会、不定期での外食等、食事が楽しみなものになるよう支援している。	三食とも事業所で食事づくりをしている。朝食は、利用者の好みを聞いて一緒に材料を買いに行っている。昼食と夕食は法人の管理栄養士の献立で、食材が届いている。利用者は、野菜の下ごしらえや調理(揚げ物など)、盛りつけ、片づけ、コーヒーの準備など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話をしながら、同じものを食べている。月1回、昼食で全国の郷土料理をつくり、日本地図を見ながら楽しんでいる。家族交流会(年2回)では外食やバーベキュー、バイキングを家族と一緒に楽しんでいる。誕生会、敬老会、プチ納涼会でのバイキング、手づくり焼き鳥とノンアルコールビール、テラスや中庭での食事、おやつづくり(ケーキ、シュークリーム、ホットケーキ、ムース、白玉ぜんざい、ゼリー、アイスクリーム)、外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食・夕食については管理栄養士が献立を立てている。摂取量については毎食チェックしている。必要に応じて刻み・ミキサー食を提供している。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり洗浄・消毒を行っている。訪問歯科の活用を行ない口腔ケアに努めている			
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けや本人のペースに応じた対応をしている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導、見守りを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の確認をしている。日頃から水分摂取を促し、飲み物にオリゴ糖を入れたり、ヨーグルトを食べたりして、なるべく薬に頼らないようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようになっている。入浴の日や時間は希望を出来るだけ聞き入れるようにしている。季節を感じてもらおうと、ゆず湯を提供した。個別浴での入浴が難しい方には、隣接施設の特設浴槽をかりて対応している。利用者の状態に応じて、清拭・シャワー浴等の対応もしている。	入浴は毎日可能で、希望する時間に1日おきには入浴出来るよう支援している。柚湯で季節を感じられるよう工夫している。清拭やシャワー浴、隣接法人施設の特設浴槽利用など、利用者の状態に合わせて支援している。入浴したくない人には、時間を変えたり、職員の交代、その日その日の声かけを工夫するなどして、個々に応じた入浴支援を行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて、日中横になりたい方には横になっていただいている。エアコンの活用をしたり、夜間不安な時はマンツーマン対応により入眠を支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、処方の内容を書いた用紙を個人別に分けて職員間で確認できる状態にしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵、療育音楽、テレビ視聴、おやつ作り、季節の行事、家事作業、外出、買い物等好きだったことや以前やっていたことを把握し、役割・楽しみをもっていただいている。	保育園児や小学生、中学生、ボランティア(月1回の療養音楽、草取り、フラダンス)などの来訪者との交流、家族交流会(年2回)、「おいでませ喫茶」、おやつづくり、調理の準備や片づけ、貼り絵、テレビ視聴など、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩、地域行事への参加、梨狩り、買い物、外食などの他、家族の方と一緒に外出・外食、協力を得てお墓参り・法事への出席もしている。希望に添って、個別の外出も行っている。	季節の花見(梅、紫陽花、紅葉)、梨狩り、地域のお大師参りや初詣、どんど焼き、秋穂まつり(花火大会)、ドライブ(長沢)、海での釣り、外食(かっぱ寿司)、買い物(食材、ケーキ、クリスマスの花、衣類など)、前庭での花見、テラスでの食事や喫茶、散歩、家族の協力を得ての墓参り、葬儀や法要への出席、自宅訪問、盆や正月の自宅外泊など、日常的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人物品の購入の為、家族からの預かり金を事務所で管理し、随時使えるようにしている。所持したい方については家族了解のもと持っただき、買い物時は自分で支払われている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきや手紙を送付できるよう支援している。電話がかかってきた際には本人に代わり話せるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、利用者の作った貼り絵や季節感のある飾り、行事の写真を掲示している。空間作りにのれんやカーテンを活用している。対面式の台所で家事を一緒にしたりすることで、生活を共にしていると感じていただいている。	対面式の台所と食堂は一体感があり、落ち着いた生活の気配を感じることができる。広いテラスに接し、植栽などから季節の移り変わりを感知することができる。掘り炬燵のある畳のコーナーやテレビの周りには、椅子やソファが配置しており、利用者が思い思いにくつろぐことができる。食堂には利用者の貼り絵作品や行事の時の写真を飾って、親しみやすい雰囲気をつくっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他に、ホールだけでなく廊下にもソファを設置し思い思いに過ごしてもらっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった家具やテレビ、家族の写真等持ち込んでいただき、本人が自宅で過ごしていた状態に少しでも近づけていただき、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	全室、畳の部屋で布団やベッドなど好みの寝具を使っている。タンス、整理棚、衣装かけ、時計などを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、人形などを飾って、居心地の良い空間をつくっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。案内の張り紙を貼ったり、居室を迷われる方には扉に名前を貼ったりしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム秋穂あかり園

作成日: 平成 29 年 6 月 7 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修への参加の機会の確保ができていない。	法人内研修を含め、所属団体や関係機関の研修への参加の機会を増やす。	法人内で開催される研修会への参加。 山介協施設部会への参加。 認知症に関する専門研修への参加。	1年
2	35	全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	職員全員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	救急救命講習の受講。 マニュアルの徹底。 施設内研修の開催。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。